

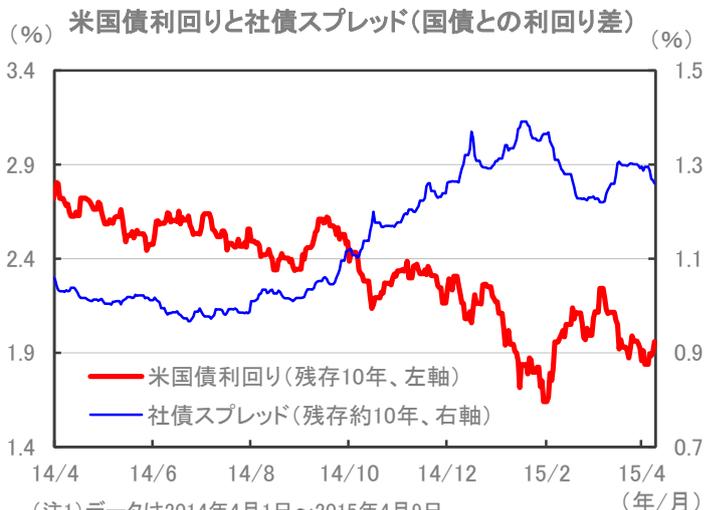
今日のトピック 米国の債券市場(2015年4月)

早期利上げ観測の後退から、国債利回りは小幅に低下

ポイント1 米国債利回りは低下

FRBが景気と物価見通しを下方修正

- 米国債利回りは、3月中旬以降、低下基調です。最近発表された経済指標が弱く、早期利上げ観測が後退していることがその背景です。
- FRBは3月17日～18日のFOMC後に新たな経済見通しを公表し、GDP成長率と物価見通しを下方修正しました。声明文では、利上げ開始まで「忍耐強くなれる」との文言が削除されましたが、利上げ開始は経済状況次第と強調され、その後の利上げペースは緩やかになるとされたことが、国債利回りの低下に影響しました。
- 欧州では、ECBによる国債購入が始まったことから、ドイツ国債の利回りが低下したことも、米国債利回りの低下に影響しました。

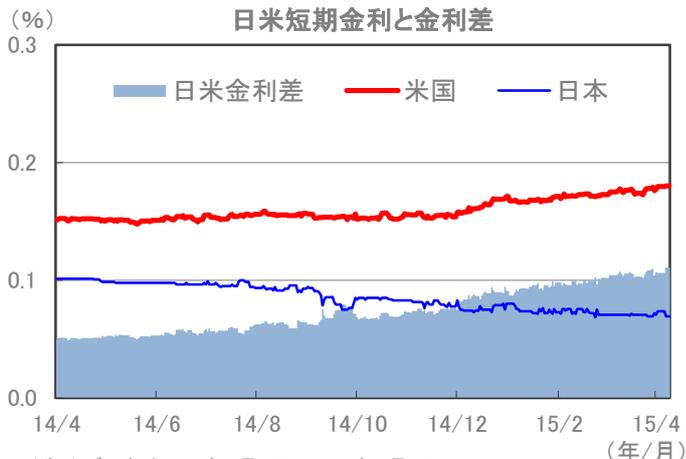


(注1) データは2014年4月1日～2015年4月9日。
(注2) 社債スプレッドはバークレイズ・米国投資適格社債インデックス。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 社債スプレッドは横ばい圏

日米短期金利差は緩やかな拡大傾向

- 社債スプレッド(国債との利回り差)は、3月中旬以降はほぼ横ばい圏で推移しました。
- 短期金利の動きをロンドン銀行間取引金利(LIBOR)で見ると、利上げ観測から米国の短期金利は上昇傾向の一方、日本の金利は低位で推移したため、日米金利差は若干拡大しました。



(注1) データは2014年4月1日～2015年4月9日。
(注2) 日米短期金利はロンドン銀行間取引金利(LIBOR)1カ月物。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

低金利環境は当面継続、債券利回りの上昇は緩やか

- 雇用の改善とガソリン安の恩恵などから個人消費は底堅いと見られます。GDP成長率は今年後半にかけて年率+3%近くが見込まれます。
- 金融政策は、今年後半の利上げ開始が見込まれ、債券利回りには上昇圧力がかかりやすいと見られます。ただし、緩やかな物価上昇から、

- 利上げペースはゆっくりとしたものにとどまり、低金利環境は当面継続すると見込まれます。
- 社債スプレッドは、主要米国企業の底堅い業績や慎重な財務運営、社債の相対的な高利回りなどから、今後も安定的に推移すると見込まれます。

ここもチェック!

2015年04月09日 主要国のリート市場の最近の動向(3月) リート市場は底堅いが為替でマイナス
2015年03月19日 米国の金融政策(2015年3月) 「忍耐強く」の文言を削除

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。